

# 「敵基地攻撃能力」保有の実態

## 2018年 防衛計画の大綱・中期防衛力整備計画

主に南西諸島防衛を目的に、スタンド・オフ・ミサイル導入を明記。ノルウェー製やアメリカ製の対地、対艦ミサイルを導入。

## 2020年9月11日 安倍首相（当時）談話

「敵国のミサイル攻撃を防ぐため「迎撃能力」を上回る対策を検討し、与党と協議して年内に結論をまとめると明記」

## 2020年12月18日 菅政権

「敵基地攻撃能力」の保有明記は見送るが、「スタ

ンド・オフ・ミサイル」の国産開発を閣議決定。陸上自衛隊のミサイル「12式地对艦誘導弾（SSM）」の射程を大幅に広げ、陸海空のいずれからも発射できるよう計画を変更。陸上配備型迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」に替わる「イージス・システム搭載艦」2隻の新造も。

## 2021年4月22日 安倍元首相

夕刊フジ主催の憲法シンポジウムで「敵基地攻撃能力」を自衛隊は保有すべきだとの意向を重ねて示す。

## 敵基地攻撃が可能な兵器



F35B:高度のステルス性能を備えた最新鋭戦闘機。短距離滑走での離陸や垂直着陸が可能。23年度までにF35Bを18機導入し、最終的には42機態勢。新田原基地に配備予定。F35Aを含め147機購入。総額で1兆5000億円



護衛艦「かが」、「いずも」に続き空母へF35B搭載の改修費231億円要求。呉海上自衛隊に配備

空中給油機 KC767／小牧基地配 KC-46A 空中給油機／三保基地配



## 政府が導入を検討するスタンド・オフ・ミサイル

名称	射程	特徴	予算	開発・輸入国	導入時期
12式地对艦誘導弾(改良版)	900キロ～1500キロ	陸海空からの発射をめざす初の国産ミサイル	850億円	三菱重工	2026年頃
対地・対艦JSM	500キロ	小型ステルス性能を持つF35戦闘機に搭載 長射程でミサイルそのものにステルス性能	386億円	ノルウェー	2022年度末
対地JASSM	900キロ			アメリカ	未定
対地・対艦LRASM	900キロ			アメリカ	未定
島嶼防衛用新対艦誘導弾	2000キロ	ステルス化や高い旋回能力で迎撃困難	研究費に105億円	川崎重工	未定 (2022年に研究終了予定)
島嶼防衛用高速滑空弾	500キロ	大気圏上空から高速で滑空し、軌道から変則的に	585億円		2026年度
極超音速誘導弾	未定	音速の5倍以上となる極超高速で飛行	148億円		未定 2025年度に研究終了予定